

# 交換関係の形成と互酬的協力行動への期待 社会的交換ヒューリスティックに関する実験研究

寺井滋・山岸俊男

キーワード：社会的交換, 互恵的利他主義, 囚人のジレンマ

Cosmidesら(Cosmides, 1989; Cosmides & Tooby, 1992)は、人類には社会的交換において相互協力を達成するのに有利な「裏切り者検知モジュール」が備わっている、と主張している。それに対してKiyonariら(Kiyonari et al., 2000; Yamagishi & Kiyonari, 2000)は、相互協力達成には裏切り者を検知するだけでは不十分であり、自ら搾取を諦め相互協力を目指すようになる心理メカニズムも備わっているはずである、との仮説を提出し、その心理メカニズムを「社会的交換heuristic」と名づけた。社会的交換heuristicとは、「今まさに重要な社会的交換場面に直面している」との認知により活性化されるheuristicであり、その活性化の結果、人は、自ら相互協力を目指すと同時に、相手も相互協力を目指しているだろうと思う(相手の互酬的協力行動を期待する)ようになる、とされている。Kiyonari et al.(2000)は、囚人のジレンマ(以下、PD)ゲームを用い、PDで得た金額が実験参加報酬額となる条件と、PDの結果と報酬額とが無関係な条件を比較した。実験結果は、前者(重要な社会的交換場面に直面している)の方が、相手の互酬的協力行動への期待が高く、PDの協力率も高い、というものであった。

本研究の目的は、Kiyonari et al.(2000)の概念的な追試であり、「重要な社会的交換場面に直面すると、相手の互酬的協力行動への期待が高まる」ことを示す。ただし、Kiyonari et al.(2000)が、PDの結果が実験参加報酬額に影響を与えるか否かを操作したのに対し、本研究では、既に社会的交換場面に身をおいているか否かを操作した。具体的には、PD行動の意思決定の順序を選択できる条件とできない条件を比較する。順序を選択できない条件とは、既に社会的交換場面に直面しており、PD行動の決定を迫られている状況である。本研究では、2人の参加者が同時にPD行動を決定する「同時条件」(通常のPD)と、自分が先に決定し、その決定内容を知った上で相手が決定する「自分先条件」の2条件を設けた。それに対してPD行動の意思決定の順序を選択できる条件とは、自分の身を投じることになる交換関係のあり方を吟味している状況に当たる。本研究では、参加者が自ら「同時条件」か「自分先条件」かを選ぶ「順序選択あ

り条件」を設けた。

仮説：順序選択あり条件では、選択なしの2条件よりも、相手の互酬的協力行動への期待が低く、協力率も低い。